

与那国島

階段状地形は「海底遺跡」

古代の城と構造上の共通点

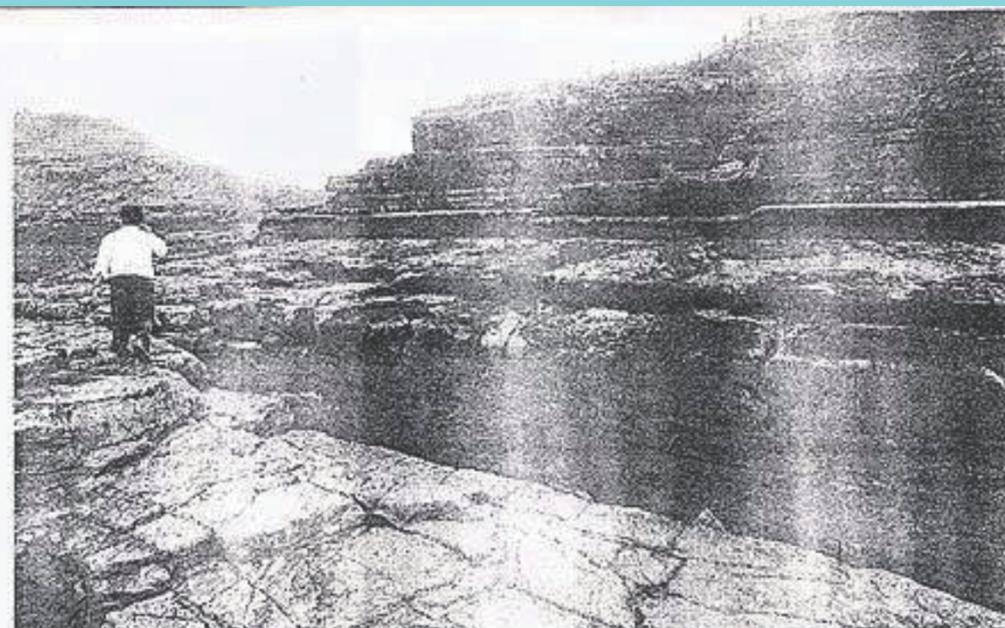
与那国島の南西に位置する、二重の階段状地形は、古くは縄文時代から、新石器時代の遺跡が散見された地形を、近代的な土木工学と建築学を駆使して、木村教授は「人為的に築かれたもの」として結論を発表した。

木村琉大教授が発表

琉大の木村教授は、与那国島の南西に位置する、二重の階段状地形は、古くは縄文時代から、新石器時代の遺跡が散見された地形を、近代的な土木工学と建築学を駆使して、木村教授は「人為的に築かれたもの」として結論を発表した。

木村教授は、与那国島の南西に位置する、二重の階段状地形は、古くは縄文時代から、新石器時代の遺跡が散見された地形を、近代的な土木工学と建築学を駆使して、木村教授は「人為的に築かれたもの」として結論を発表した。

木村教授は「階段状地形は、縄文時代から、新石器時代の遺跡が散見された地形を、近代的な土木工学と建築学を駆使して、木村教授は「人為的に築かれたもの」として結論を発表した。



琉大の木村教授が、海底遺跡と同様に人為的に築かれたもの、と判断した地形の断面

遺跡は人工物の可能性

与那国の海底造形物で木村琉大教授



海底調査で打撈とみられる穴が見つかった。2つの穴の間に人工的に構ったと考えられる跡がある（与那国島の海底（3月20日撮影）。琉球大学海底調査隊提供）

人工物が自然の造形物か、断面に人工的打撃痕と見られる凹凸が認められる。与那国沖の「イセモイシ」などの沖中から、この遺物上について、琉球大学海

底調査隊（副隊長・木村琉大教授）が、1991年11月、マスキミ

白土（11月）まで現地調査を行った。その結果、断面の

スレ彫彫ではない」「石の

断面に人工的打撃痕と見られる凹凸が認められる。与那国沖の「イセモイシ」などの沖中から、この遺物上について、琉球大学海

底調査隊（副隊長・木村琉大教授）が、1991年11月、マスキミ

白土（11月）まで現地調査を行った。その結果、断面の

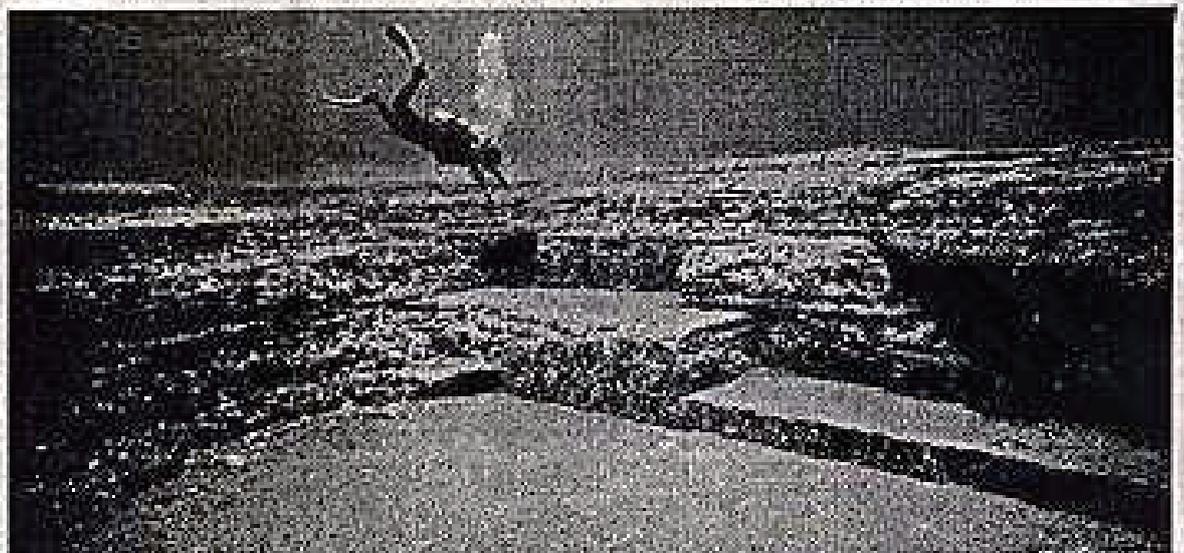
スレ彫彫ではない」「石の

断面に人工的打撃痕と見られる凹凸が認められる。与那国沖の「イセモイシ」などの沖中から、この遺物上について、琉球大学海

底調査隊（副隊長・木村琉大教授）が、1991年11月、マスキミ

白土（11月）まで現地調査を行った。その結果、断面の

スレ彫彫ではない」「石の



巨大岩石に柱の穴や階段

与那国島沖の海底

長さ約120m
幅約40m
高さ約20m

琉球大の木村政昭教授（海洋地質学）は十七日、沖縄県・与那国島沖の海底にある巨大な岩石について「柱の穴とみられる跡や階段状の段がついているなど、人の手が加えられた形跡があり、古代の遺跡の可能性が高い」と発表した。

木村教授は「浸食や断層によるものとは考えられない形状だ。遺跡が造られた時期は不明だが、地質学的な変化などからみて（海面が大きく変動した）一万年

千年前か四千年前に水没したのではないかと話している。

この岩は、与那国島南部の新川鼻（あらかわぼね）沖合三百一三百呎の水深約三十呎にあり、長さ約百一十呎、幅約四十呎、高さ約二十呎。

琉球大の海底遺跡調査団（団長・木村教授）が、三月下旬、潜水などによる調査をした。岩の南側を中心に、切り立った階段状の段があったほか、上部には、二つ並んだ直径約九十センチ、深さ約一呎の円筒形の穴が見つかった。木村教授らは「柱の穴とみえており、テラス状の平らな岩の上で、礼拝などが行われたのではないかと推測している。

似たような球形が島の南東部の断崖が続く「サンニヌダイ」や、早良部岳（標高三二二呎）の山頂にもあり、調査団は遺跡の可能性を高くして今後、調べる方針だ。

岩盤をくりぬいたような形状がある沖縄県・与那国島の遺跡ポイント上部。ダイバーがいる直下には柱の穴がある

1万年から4000年前 南方の文明が水没した？



南西諸島に遺構が点在

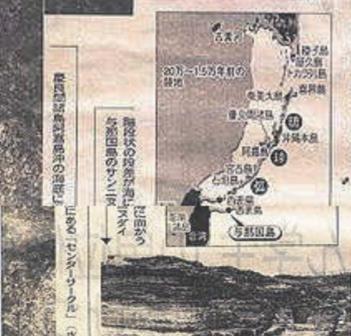
【高知市】南西諸島の南西に点在する遺構が、1万年から4000年前の文明の痕跡を示している。高知市立博物館の調査によると、南西諸島の南西に点在する遺構が、1万年から4000年前の文明の痕跡を示している。高知市立博物館の調査によると、南西諸島の南西に点在する遺構が、1万年から4000年前の文明の痕跡を示している。

英作家ハンコック氏驚嘆

【高知市】南西諸島の南西に点在する遺構が、1万年から4000年前の文明の痕跡を示している。高知市立博物館の調査によると、南西諸島の南西に点在する遺構が、1万年から4000年前の文明の痕跡を示している。

「遺跡ポイント」概念図
「高知市立博物館」

「琉球弧の海底遺跡を探る」
琉球弧が初の潜水調査



「琉球弧の海底遺跡を探る」
琉球弧が初の潜水調査

人工的階段や広場発見

【高知市】南西諸島の南西に点在する遺構が、1万年から4000年前の文明の痕跡を示している。高知市立博物館の調査によると、南西諸島の南西に点在する遺構が、1万年から4000年前の文明の痕跡を示している。

与那国島の奇岩は山城？

【高知市】南西諸島の南西に点在する遺構が、1万年から4000年前の文明の痕跡を示している。高知市立博物館の調査によると、南西諸島の南西に点在する遺構が、1万年から4000年前の文明の痕跡を示している。

「琉球弧の海底遺跡を探る」
琉球弧が初の潜水調査

「琉球弧の海底遺跡を探る」
琉球弧が初の潜水調査

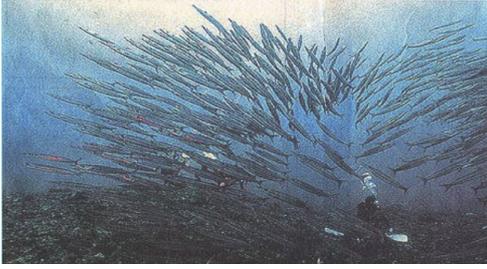


「巨大な岩の壁が、まるで階段のようになっている。これは、何者かの手によるものか、それとも自然の造りか、まだ不明だ。」

写真提供：ロバート・マクドナルド氏

アングル'97

神秘の巨岩 海中宮殿



「巨大な岩の壁が、まるで階段のようになっている。これは、何者かの手によるものか、それとも自然の造りか、まだ不明だ。」

ロバート・マクドナルド氏は、この岩の壁を「海中宮殿」と呼んでいる。この岩の壁は、まるで階段のようになっている。これは、何者かの手によるものか、それとも自然の造りか、まだ不明だ。

ロバート・マクドナルド氏は、この岩の壁を「海中宮殿」と呼んでいる。この岩の壁は、まるで階段のようになっている。これは、何者かの手によるものか、それとも自然の造りか、まだ不明だ。

与那国

「巨大な岩の壁が、まるで階段のようになっている。これは、何者かの手によるものか、それとも自然の造りか、まだ不明だ。」

ロバート・マクドナルド氏は、この岩の壁を「海中宮殿」と呼んでいる。この岩の壁は、まるで階段のようになっている。これは、何者かの手によるものか、それとも自然の造りか、まだ不明だ。

写真提供：ロバート・マクドナルド氏

流れに抗して

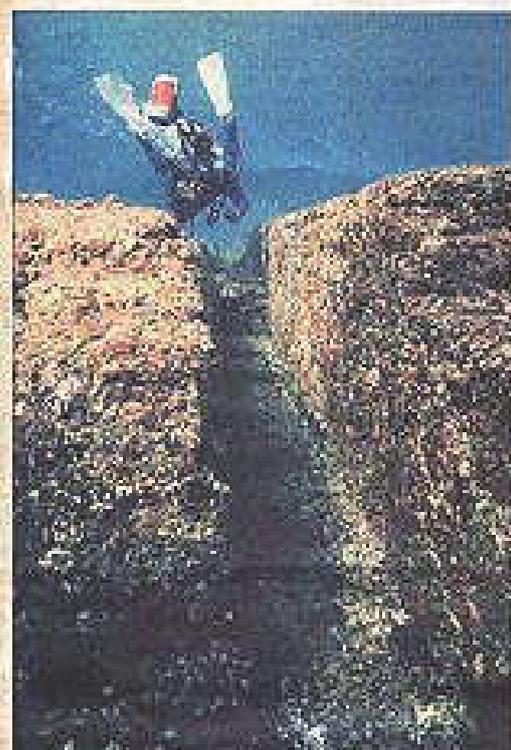
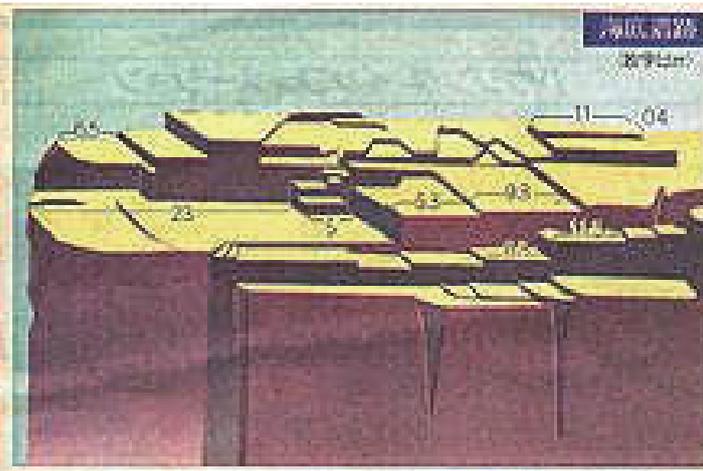
上から見たポイントの全景。流れが速く、シャッターも決まれないようにするため、「露光



海底遺跡？広がるロマン

「黒潮に沈む」と日本列島の西端、沖縄県・与那国島。その海域に多数の遺跡が、海底を舞台で発見された。史跡を有していることが「埋没遺跡」として認定された。地方の琉球大学も、今年、与那国島の本島前平瀬水溝内を調査して、自然が守った遺跡が、それとも人工的な建造物の痕跡、学術的な研究もあつた。南西諸島の調査が、学術的な研究もあつた。南西諸島の調査が、学術的な研究もあつた。南西諸島の調査が、学術的な研究もあつた。

現場は、与那国島の「西川」に入ると、右左に南水地帯。一帯、表層には、三〇センチメートル程度の厚さ、土壌が、ダイオキシンや鉛を含有する。土壌が、ダイオキシンや鉛を含有する。土壌が、ダイオキシンや鉛を含有する。



カマロアイ 沖縄・与那国島

潜水調査は琉球大学海洋学部の本村隆雄教授。本村教授は、従来の「埋没遺跡」に比べて「人工的な建造物や水溝」を調査している。本村教授は、従来の「埋没遺跡」に比べて「人工的な建造物や水溝」を調査している。

「埋没遺跡」は、築造の目的が不明なため、調査が困難な場合がある。本村教授は、従来の「埋没遺跡」に比べて「人工的な建造物や水溝」を調査している。

不思議な大穴
柱穴のまわりに見える穴。遺跡の内部、埋没の層あり、二〇センチメートル



「埋没遺跡」は、築造の目的が不明なため、調査が困難な場合がある。本村教授は、従来の「埋没遺跡」に比べて「人工的な建造物や水溝」を調査している。

海底に延びる 引水溝のように見える溝。ノミで削ったように見える



人工か自然か 上から見ると巨大な階段のようだ＝写真はいずれも沖縄県・厚那国島で

「神々の指紋」著者

沖繩 与那国島 海底遺跡

G・ハンニコック氏が大調査

沖繩の与那国島の海底で発見された「御蔵遺跡」とみられる巨大石造物を、世界的なベストセラーとなった「神々の指紋」の著者、ケルハム・ハンニコック氏が再び調査に動いた。

「御蔵遺跡」は海外からも注目を集めた。海外出版する「大衆の魂」のなかで紹介し、「これと並び世英因のテレビでも調査の模様を放映される予定で、



「海底遺跡」の調査を行うケルハム・ハンニコック氏（左）と調査員（右）

英TV局も同行取材

「御蔵遺跡」は日本の琉球の神話の中心から一〇〇キロ離れたところにある。発見したのは地元でダイビングの指導者として活躍するケルハム・ハンニコック氏。身長一〇〇センチにわたる。高さは一五センチから一メートルまである。石は堆積岩で、六角形、長方形、三角形、五角形などあり、石の表面には刻印や文字が刻まれている。ケルハム・ハンニコック氏は、この遺跡が古文明の遺跡であると主張している。ケルハム・ハンニコック氏は、この遺跡が古文明の遺跡であると主張している。ケルハム・ハンニコック氏は、この遺跡が古文明の遺跡であると主張している。

「御蔵遺跡」は日本の琉球の神話の中心から一〇〇キロ離れたところにある。発見したのは地元でダイビングの指導者として活躍するケルハム・ハンニコック氏。身長一〇〇センチにわたる。高さは一五センチから一メートルまである。石は堆積岩で、六角形、長方形、三角形、五角形などあり、石の表面には刻印や文字が刻まれている。ケルハム・ハンニコック氏は、この遺跡が古文明の遺跡であると主張している。ケルハム・ハンニコック氏は、この遺跡が古文明の遺跡であると主張している。ケルハム・ハンニコック氏は、この遺跡が古文明の遺跡であると主張している。

「人間の手が加わっている」

ケルハム・ハンニコック氏は、この遺跡が古文明の遺跡であると主張している。ケルハム・ハンニコック氏は、この遺跡が古文明の遺跡であると主張している。ケルハム・ハンニコック氏は、この遺跡が古文明の遺跡であると主張している。ケルハム・ハンニコック氏は、この遺跡が古文明の遺跡であると主張している。ケルハム・ハンニコック氏は、この遺跡が古文明の遺跡であると主張している。

紹介し、この巨大石造物は古文明の遺跡であると主張している。ケルハム・ハンニコック氏は、この遺跡が古文明の遺跡であると主張している。ケルハム・ハンニコック氏は、この遺跡が古文明の遺跡であると主張している。ケルハム・ハンニコック氏は、この遺跡が古文明の遺跡であると主張している。ケルハム・ハンニコック氏は、この遺跡が古文明の遺跡であると主張している。

1997. 11/19 水

まさに人工建造物

与那国の遺跡ポイント

マイヨールさん潜って驚き

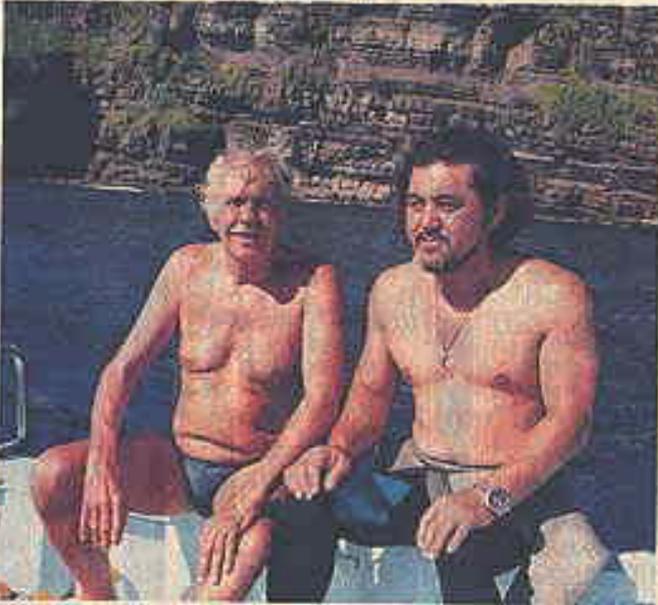
再調査に意欲

世界的なテレビで日本を伝えている、あの探検家マイヨールさん(マイヨール・ブル)が、このほど、与那国島を訪れ、人工物かどうかが高確率になっている高岡郡の「遺跡ポイント」に潜った。海軍遺跡への興味から調査ポイントを自分の目で確かめようと、初めて潜水したマイヨールさんは本紙の取材に答えて「非常に驚かされた。人工の建造物であることは疑念の余地がない」と語り、本格的な調査を行いたいとの意欲を述べた。

与那国島の海底遺跡は、今年四月、本報記者の取材で、大規模な調査が「人工的」に築かれた遺跡の可能性が高い」とする現地調査の結果を発表。関係者によると、遺跡が、自然の地形かについては特に海外での関心が非常に高く、マイヨールさんの参入で、一層世界の関心が高まっている。

マイヨールさんは、潜水ボートで潜水調査なしで、潜水調査のフリーダイビングの力を総動員して調査した。マイヨールさんは、同建造物を調査した感想を「見た目は非常に先史時代の遺跡が印象的だ。おそろしく自然の環境に古人が生を加えたものだ。海軍遺跡と手を洗った、説明しようがない」と興奮した様子で語った。

今回は潜水時間が短かったため、時間が足りずに残念だ。もっと大きな潜水用具を持ち、大規模な調査を組織したい」と、次回訪問に意欲的。「準備はほぼそろそろ、数年かかるとは思う」と早くも構想に取り掛かっている。



初めて訪れた与那国島で「遺跡ポイント」に潜ったジョー・マイヨールさん(左)と案内役の新潟縣八幡さん(右)の同乗船

島の新川島の沖き、水深二十五メートルを航行された。長さ約百二十メートル、幅約四十メートル、高さ約十メートルの巨大船殻が浮かぶ。巨大船殻の遺跡からマイヨールさんとして入る。

同建造物は約十年前に同